

(16) 藻類養殖指導

予算

運営費交付金

概要

1. 藻類養殖漁場の塩分、リン（DIP）、窒素（DIN）：表 1～3 のとおり。
2. ノリ養殖（尾崎・西鳥取）：11 月下旬から育苗が開始され、育苗中のノリ芽の状態はおおよそ問題無かった。冷凍入庫は 11 月末までには完了し、水温の低下を待って 12 月に入ってから順次ノリ網の張り込みが開始された。12 月から 1 月上旬までは生長が芳しくなく、1 月中旬になってようやく摘採作業が始まり、板海苔の生産が行われた。2 月上旬には著しい色落ちが生じて板海苔の生産が中断され、その後も栄養塩環境は好転せずに色落ちが生じながらも 4 月上旬まで生産が継続された。生産枚数は 173 万枚と前年を上回った（表 4）。
3. ワカメ養殖：田尻から下荘の各地区では、11 月下旬から 12 月上旬にかけてワカメ種糸の挟み込み作業が行われ、順次養殖が開始された。その後も順調に生育し、1 月下旬には生ワカメの出荷が行われた。しかしながら、2 月には著しい色落ちが生じ、出荷を中断していた地域もあった。3 月以降湯通し塩蔵わかめや素干しわかめの生産も行われた。谷川では 1 月中旬に本養殖が開始され、4 月に収穫が行われた。
4. 藻類養殖情報：気温・水温、降雨量、栄養塩測定結果、赤潮発生状況及び養殖概況をとりまとめ、藻類養殖情報として 11 月～3 月に 5 回発表した。

調査方法

1. 調査定点
田尻町田尻、泉南市岡田浦、阪南市尾崎、西鳥取、下荘、岬町谷川の 6 点（図 1）
2. 調査期間と実施日
2024 年 11 月から 2025 年 3 月（各月の第 1 週を目安に実施）
巡回指導実施日：11 月 6 日、12 月 2 日、1 月 14 日、2 月 3 日、3 月 3 日
3. 調査項目
1) 巡回指導
各養殖漁場で採取した表層海水の塩分、溶存態無機リン（DIP）、溶存態無機窒素（DIN）の測定、ノリ・ワカメの養殖概況の把握

調査結果

表 1～4 のとおり。

担当者

山中智之、辻村裕紀、齋藤真史

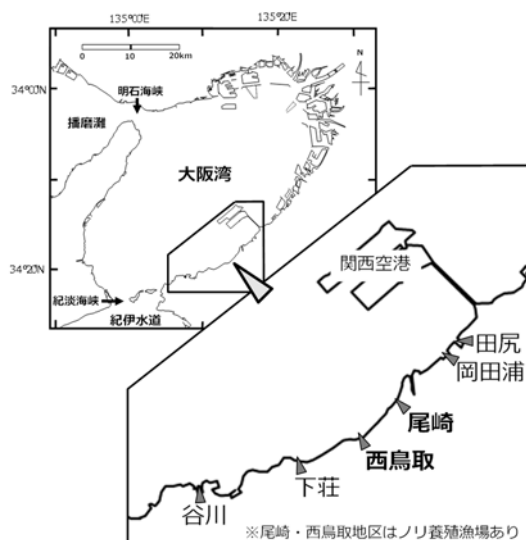


図 1 調査場所

表 1 漁場の表層塩分

(psu)						
月	田尻	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	32.16	31.15	31.11	31.59	31.82	32.63
12	31.80	23.17	31.16	31.83	31.48	32.68
1	30.72	31.55	31.29	31.93	32.08	32.78
2	31.82	31.76	30.29	31.86	31.87	32.65
3	31.82	31.83	31.14	31.51	31.47	32.43

表 2 漁場の DIP

($\mu\text{mol/l}$)						
月	田尻	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	0.82	0.99	1.74	1.25	1.19	0.63
12	0.51	2.10	1.06	0.47	0.79	0.55
1	0.90	0.56	1.77	0.45	0.42	0.56
2	0.25	0.15	1.42	0.14	0.16	0.29
3	0.17	0.28	0.42	0.13	0.24	0.27

※ノリ色落ち警戒濃度： $0.5\mu\text{mol/l}$ 、ワカメ色落ち警戒濃度： $0.1\mu\text{mol/l}$

表 3 漁場の DIN

($\mu\text{mol/l}$)						
月	田尻	岡田浦	尾崎	西鳥取	下荘	谷川
11	11.20	15.45	24.99	18.77	19.73	7.19
12	7.55	48.30	17.05	5.87	11.32	5.52
1	20.18	11.74	17.58	7.15	5.64	5.71
2	2.97	0.60	14.63	0.30	1.36	1.94
3	1.34	4.98	6.75	0.35	2.00	1.90

※ノリ色落ち警戒濃度： $10\mu\text{mol/l}$ 、ワカメ色落ち警戒濃度： $2\mu\text{mol/l}$

表 4 ノリ生産概況の経年変化

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	前年比(R6/R5)
経営体数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	1.00
持網数(千枚)	0.76	0.79	0.79	0.78	0.72	0.72	0.74	0.71	0.74	0.74	1.00
生産枚数(万枚)	154	159	322	148	216	190	146	155	132	173	1.31
共販枚数(万枚)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平均単価(円/枚)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—